

# 2016 年度春学期 授 業 評 価 報 告

科 目 区 分 名	看護学科	科 目
-----------	------	-----

アンケート結果、今後の改善、その他特記事項（授業方法の工夫等）についての総評

## アンケート結果について

看護学部看護学科の対象科目は 12 科目 14 クラスであり、対象科目の全てで実施され、回答率は 94.5%であった。

設問別評定平均値については、2015 年度との比較では、「教員の話の聞き取りやすさ」「授業中の環境整備」について 0.4 ポイントの改善は確認できたものの、「授業内容の理解」「教員の授業方法の工夫」「教員の話の聞き取りやすさ」「シラバスとの整合性」「授業中の環境整備」において全学平均に比べて平均値を下回っていた。科目別では、複数教員が担当する演習を中心とした科目においては、評定平均値が高い傾向にあった。

DWCLA10 では、「思考力」、「分析力」「思いやる力」の選択率が全学選択率よりも高く、演習を中心とした科目では、「コミュニケーション力」、「変化対応力」の選択率も高かった。一方、「創造力」、「プレゼンテーション力」、「リーダーシップ力」は低かった。

時間外学習時間（時間加算期待値 h/w）は、平均 0.69（科目平均の範囲 0.28～1.42）であり、全学平均とほぼ同じであった。また、「授業のレベル」と時間外学習時間との関連もみられなかったが、事前事後学習の課題が多い科目は、必然的に時間外学習時間も多かった。

## 今後の改善について

次年度も教員と学生が授業アンケートの意義を理解し、授業アンケートを実施できるようにする。また、各科目で涵養できる DWCLA10 について検討していくと共に、「創造力」「プレゼンテーション力」「リーダーシップ力」の育成についても学年の進捗と共に教育活動全般としてとらえ、授業方法等の工夫も必要と考える。

各科目の授業担当者においては、集計結果を十分に分析し、さらに授業全般をブラッシュアップすること、また、特に設問別評定平均値が科目区分平均を下回る科目については、授業評価を真摯に受け止め、次年度に向けての早急な改善が求められる。学科としては、引き続き教員の FD 研鑽のための環境整備に務めていきたい。

上記の枠内に収まる範囲内でご記入ください。